

いつも何気なく運転する道や子どもたちの通学路で起こってしまう痛ましい事故。家族を突然失ってしまったご遺族の悲しみは、察するに余りあります。

4月13日から5月4日の22日間に、菊川警察署管内（本市と菊川市）で4件の交通死亡事故が発生しました。そのうち2件で、2人の御前崎市民の尊い命が失われました。市は、短期間に死亡事故が多発したことから5月9日から10日間、市単独では初となる交通事故多発警報を発令。交通事故防止と交通安全意識の向上を呼び掛けました。

本市には電車が通っていません。そのため、ほとんどの家庭で車を保有しています。中には、1人1台車を保有しているという場合もあるでしょう。

車を運転すれば、その分事故を起こす確率は高くなります。車を運転する全ての人が加害者になる可能性があるのです。

普段の生活の中で、安全への意識は薄れていませんか。交通事故は遠い世界のことと思っていませんか。私たちは誰もが被害者、加害者になる要素を持っています。家族や子ども、大切な人が事故に遭わないように、事故を起こさないように、一度、交通安全について見つめ直してみましょ。

身近に潜む危険 意識すれば回避できる

市内の交通事故の多くはどんなところで発生しているのか。菊川警察署交通課 後藤茂係長に話を聞きました。

出合い頭の事故に注意 国道交差点で事故多発

平成29年度に市内で発生した事故は170件。9割以上が車両同士か車両単独の事故で、中でも出合い頭の事故が58件と全体の35%を占めます。

後藤係長は「御前崎市は、出合い頭の事故が顕著に多いという特徴があります。これは細い道が多いという土地柄もありますが、カーブミラーに頼りすぎているということが言えます。一時停止の後は、少し前に出て目視をすることが不可欠です。大通りを走っている車も『脇道から車が飛び出してくるかもしれない』という意識を持って運転してほしいです」と話します。

力所が国道150号沿いです。2車線あり、スピードも出やすい道路ですから、十分に気を付けて運転する必要があります」と呼び掛けます。

6月～7月は 事故が増加する傾向

およそ2日に1回のペースで交通事故が発生している本市。事故が起こりやすい時期や時間帯はあるのでしょうか。

後藤係長は「御前崎市に限ったことではありませんが、子どもの事故は春から夏休みにかけて増加します。生活環境が変わり、慣れない道を歩いたり自転車を使用するようになったりするためです。家族が事故に気を付けるよう繰り返し声掛けすることが大事です。さらに、運転者側も子どもの行動を予測し、一定の距離を保った運転を心掛けてください。」

高齢の歩行者が巻き込まれる事故は、秋から冬にかけて増加します。これは、散歩に出る時間と日没時間、会社員の帰宅時間が重なるためでしょう。

一日のうちでは、通勤・通学の時間帯である8時前後と、帰宅時間である17時前後は交通量が増える上に気がせいってしまうので事故が多いです。

自分だけは大丈夫という意識は危険です。交通事故は、これだけ身近なことだと感じてほしいと思います」と訴えます。



菊川警察署交通課
後藤茂係長

事故の多い交差点

▼国道150号
浜岡IC東交差点付近



▼国道150号
新野川橋西交差点付近



▼国道150号
原発正門入口交差点付近



▼県道掛川浜岡線
苗代橋南交差点付近

